

他作品でSCP

スーパー1

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

他作品を元にscpっぽく書いてみた。

この作品でつてリクエストがあったら書くかもしれません。

リクエストは活動報告へお願いします。

p. s. 作者は大学生なこともあり、結構なスローペースです。それでもよろしければ。

SCP Foundationはクリエイティブ・コモンズ表示継承3.0ライセンス作品です(CC-BY-SA3.0)

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/deed.ja>

目次

SCP—2016—j p—j	“ 奇妙なゲーム機 ”	1
SCP—CN—1987—j	“ 変化泉 ”	3
SCP—2008—j	“ p r i c k l y (棘にまみれて) ”	7
SCP—2002—j p—j	“ 鏡の世界 ”	11
SCP—2740—j p—j	“ 「遊」愛 ”	15
SCP—4527—j—EX	“ 神々が競う国 ”	18
SCP—2013—j p—j	“ その森に救いはなく ”	20
SCP—1985—j p—j	“ アイテムボックス ”	25
SCP—571—j p—j	“ 二人の死神 ”	29
SCP—4869—j p—j	“ D e a d o r y o u n g ”	31
SCP—007—j p—j	“ 疑心暗鬼を生ずるは ”	33
SCP—729—j p—j	“ なにげさん ”	36
SCP—2172—j p—j	“ 失くして気づく、かけがえ無き ”	39

SCP—2016—j p—j “ 奇妙なゲーム機 ”

アイテム番号：SCP—2016—j p—j

オブジェクトクラス：Safe

特別収容プロトコル：SCP—2016—j p—jは、サイト—8181の標準Safeクラス収容ロッカーに収容されます。このオブジェクトの使用・実験はBクラス以上の職員に許可をとった上で行ってください。

説明：SCP—2016—j p—jは、薄緑と白を基調とした携帯ゲーム機のような形状の“ SCP—2016—j p—j—1 ”と、グリップのついたゲームカセットのような形状の“ SCP—2016—j p—j—2 ”の二つから構成されています。

発見されたのはT都の大学病院で、勤務している小児科医が発見、警察に届け出られる直前に潜入していたエージェントにより回収されました。

SCP—2016—j p—j—1はそれ単体では稼働せず、SCP—2016—j p—j—2を正面から向かって左上の空洞部に挿入する事で内部のデータを閲覧することが可能となります。しかし、内部データは数人分の個人データと録音されたと思われる音声データ以外は破損している模様です。

なお、データに記録されている人物は全員が日本人ですが、2016年現在、その全員の存在が確認されていません。

SCP—2016—j p—j—2のグリップ部にはイラストと“ 仮■ラ■■ーク■ニ■■ ”と所々掠れた文字が書かれており、端子の横に起動ボタンと思われるものが取り付けてあります。Dクラス職員がこのボタンを押した際、全身にノイズのようなものが走った後、その場から消失しました。

以下、SCP—2016—j p—j—1内部に残されていた音声データ

カチツ

男性A『…ここ…は…?』

男性B『目が覚めましたか。ここは■■■大学病院です。…何があったかは、覚えていますか?』

男性A『…確か、俺はあのゲームをプレイしてて…負けた後に消滅とか言われて…』

男性B『はい。事実あなたは消滅していた。厳密にはデータとして分解されたといった方が正しいのですが。』

男性A『…嘘だろ、そんな…。そ、そうだ、あれから何日たってるんだ!?親父は?おふくろは?』

男性B『…あなた、いやあなた方が消滅した後、あのゲームはすべて回収されました。開発者曰く復活する手立てもありうると。』

男性B『ですが、その復活する手段の確立に時間がかかり…』

男性A『そんなことはどうでも良い!今は何日だって聞いてるんだ!』

男性B『…20■■■年です。』

男性A『…は?』

男性B『20■■■年■■■月■■■日です。あなたが消滅してから■■■年が経過しました。』

男性A『…ははっ、ドッキリにしちゃ趣味が悪いよ、先生。なあ、嘘なんだろう!嘘だっていつてくれ!』

男性A『なあ、おい!ふざけんな!ふざけんなよ!うあああああああ!』

男性B『おい誰か!誰か鎮静剤を!』

カチツ

補遺:その後の実験で、SCP—2016—j p—j内部のデータに消滅したDクラス職員のもものが追加されていたことが判明しました。

SCP—CN—1987—j “変化泉”

アイテム番号：SCP—CN—1987—j

オブジェクトクラス：Euclid

特別収容プロトコル：SCP—CN—1987—jは、中国支部のEクラス職員数グループで管理・監視を行っています。

実験の際はAクラス職員の許可を取り、細心の注意を払って行ってください。

説明：SCP—CN—1987—jは、中国の山奥にある秘境で、一部の人間には修行場として用いられていました。

SCP—CN—1987—jには約100箇所以上の泉があり、その泉の水を一定量浴びた生物は最初に溺れた生物の姿に変身するという異常性を得ます。便宜上この異常性を得た生物はSCP—CN—1987—j—1とします。

SCP—CN—1987—j—1はSCP—CN—1987—jの発見時点で既に世界中に存在し、全ての収容は不可能と思われま

3

す。
SCP—CN—1987—j—1の特性は、上記の通り最初に溺れた生物への変身能力を得ると言うもので、実験の結果水を被ることで変身、湯を被ることで解除される事が判明しました。

現在はこの異常性を無くすための手段を研究中です。

実験記録

記録形式

被験者：

泉の効果：

泉の水をかけられた結果：

実験12 / ■■ / ■■

基礎研究チームによる簡易実験

被験者：研究助手 ■■■■■■■■■■■■

泉の効果：女性になる

泉の水をかけられた結果：

衣服はそのまま性別を逆転させたような姿になった。

被験者：研究助手 ■■■■■・■■■■■

泉の効果：猫になる

泉の水をかけられた結果：

衣服をその場に残り、金の毛並みの猫になった。

被験者：研究助手 ■■■■■

泉の効果：パンダになる

泉の水をかけられた結果：

パンダになった。衣服は消失したが元の姿に戻ると同時に出現。

どうやら動物によっては元の特徴を残すようです。

―研究助手 ■■■■■

元の体格以上になると服が消えるのか？

―■■■■■ 博士

被験者：■■■■■ 博士

泉の効果：女性になる？

泉の水をかけられた結果：

衣服はそのままだが、明らかに本来の容姿とはかけ離れた日本人女性になった。

性になった。

被験者：■■■■■ 博士

泉の効果：■■■■■ 博士のものと同じ

泉の水をかけられた結果：

■■■■■ 博士と同様の結果になった。

なぜこれだけ同じ姿なんだ？この女性が溺れたんだろうが…

―■■■■■ 博士

とりあえず他の動物でも試してみようか。

―■■■■■ 博士

実験 1 2 / ■■■■ / ■■■■

非人類に対するSCP—CN—1987—jの効果を調査するた

めの実験

被験者：鶏

泉の効果：パンダになる

泉の水をかけられた結果：

パンダになった。その後一定期間観察したが、動くのに四苦八苦し
ている様子だった。

被験者：黒猫

泉の効果：猫になる

泉の水をかけられた結果：

効果無し。

そりやそうだ。

― ■ ■ ・ ■ ■ ■ 博士

被験者：白猫

泉の効果：女になる

泉の水をかけられた結果：

白髪の少女になる。なお知性や挙動は猫のままだったが一定期間
の教育の結果人間レベルにまで知性を取得、対話も可能となった。現
在職員として活動中。

動物を人にすることも出来るのか：

― ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ 博士

日本支部の一部が喜びそうだな。

― ■ ■ ■ ・ ■ ■ ■ 博士

被験者：モルモット

泉の効果：複数の泉の水を混ぜたもの

泉の水をかけられた結果：

「削除済み」

とにかくカオスだった。

― 研究助手 ■ ■ ・ ■ ■ ■ ■ ■ ■

補遺：ブライト博士が二度としてはいけないことのリストに「SC
P―CN―1987―jの水をサイトの貯水槽に入れないこと」が追

加されました。

SCP—2008—j “ prickly (棘にまみれて) ”

アイテム番号：SCP—2008—j

オブジェクトクラス：Keter

特別収容プロトコル：SCP—2008—jは現在、発生源と思われるアメリカ合衆国■■■■州のガソリンスタンド跡とその周辺を封鎖される形で収容され、定期的にEクラス職員による巡回が行われます。巡回時には専用の装備と火炎放射器を標準装備とします。

SCP—2008—j—01の検体は、生物研究エリア—12内部にて10×10×10?のガラスケースにて保存されたもの以外は、発見もしくは実験終了後に必ず焼却という手段で終了させていただきます。

説明：SCP—2008—jは黒い棘型の寄生生物です。その性質は生物を刺さった部位から徐々に浸食し、最終的に全身からSCP—2008—jが生えたゾンビのような状態(以後、SCP—2008—j—01と呼称)にする、というものです。

SCP—2008—jに寄生されると、刺さった箇所とその周りの細胞が腐敗し、内部から新たなSCP—2008—jが発生、さらに腐敗と発生を繰り返していきます。

手足等の末端部に寄生された場合は胴体に浸食される前に寄生部位を切り落とすことで浸食を免れることができます。

SCP—2008—j—01はその生物としては死亡した状態となり、SCP—2008—j—01以外の周囲の生物に無差別に襲い掛かります。

また、上記の手段で体から切り離れた寄生部位もSCP—2008—j—01として活動します。

SCP—2008—j及びSCP—2008—j—01はサーモグラフィーのような手段で周囲を認識しているようで、実験の結果、周囲の中でより温度の高いものに近づいていく習性が見られました。

20■■■■年アメリカ合衆国■■■■■■■■■■州のガソリンスタンドにて突如発生、付近にいたガソリンスタンドの職員に寄生、その範囲を拡大する寸前にガソリンスタンドごと爆発。巻き込まれた男女によつて通報され、警察内部に潜入中、その通報を受けたエージェントにより本部に連絡。数時間後に機動部隊ベーター7によつて付近に残存していたSCP-2008-j-01を捕獲、ガソリンスタンドと周辺を隔離しました。その後、通報した男女は記憶処理を受け、解放されました。

実験記録

記録形式

被験者：

刺した部位：

経過時間：

結果：

備考：

被験者：モルモットの成体

刺した部位：左後ろ足

経過時間：5分

結果：SCP-2008-j-01化

備考：なし

被験者：実験用マウス

刺した部位：右大腿部

経過時間：2分

結果：SCP-2008-j-01化

備考：なし

被験者：Dクラス職員

刺した部位：右手の甲

経過時間：8分

結果：SCP-2008-j-01化

備考：椅子に拘束状態

寄生速度は対象の大きさに比例するようだ。

――博士

被験者：モルモットの成体

刺した部位：左後ろ足

経過時間：3分

結果：SCP―2008―j―01化

備考：直前に30℃程度の湯を飲ませた

被験者：実験用マウス

刺した部位：右大腿部

経過時間：5分

結果：SCP―2008―j―01化

備考：直前に10℃程度の冷水を飲ませた

ふむ、寄生速度は温度にも変わるのか。

――博士

被験者：モルモットの成体

刺した部位：左後ろ足

経過時間：5分

結果：SCP―2008―j―01化

備考：SCP―2008―jを刺し、1分ほどしてから抜く

被験者：モルモットの成体

刺した部位：左前足

経過時間：5分

結果：変化なし

備考：SCP―2008―jを刺し、即座に抜く

被験者：モルモットの成体

刺した部位：右後ろ足

経過時間：5分

結果：変化なし

備考：SCP―2008―jを刺し、浸食部位を切り落とす

浸食されていなければ問題は無いのか？

――博士

補足：この実験の数日後、被検体となり、生存していたモルモット
数匹と素手でSCP-2008-jに触れた■・■博士がSCP
-2008-j-01に変化、終了されました。

この結果をもって、今後SCP-2008-jを用いた実験は一切
禁止となります。

SCP—2002—j p—j “鏡の世界”

アイテム番号：SCP—2002—j p—j

オブジェクトクラス：k e t e r N e u t r a l i z e d

特別收容プロトコル：SCP—2002—j p—jは、現在日本全域で発生していると考えられ、また範囲もどこまで存在するか不明であるため、收容は不可能と思われます。

SCP—2002—j p—jは現在無力化された模様です。

説明：SCP—2002—j p—jは、鏡や反射物を出入口とする所謂「鏡写しの世界」です。内部は全て左右反転しており、電子機器以外の機能はこの世界と変わりはありません。また、通常の間人は内部に入った後、数分足らずで消滅します。

内部には通常的手段で入ることは不可能であり、判明している手段は確認できただけで二つ、それ以外は解明されていません。

一つ目はSCP—2002—j p—j内部に存在する生命体（以下SCP—2002—j p—j—1と呼称）によって引きずり込まれる方法、二つ目はカードデッキと呼ばれる道具（以下SCP—2002—j p—j—2と呼称）を用いて侵入する方法です。

SCP—2002—j p—j—1による方法は日本中で発生した原因不明の行方不明事件にも関わっている可能性があります。

SCP—2002—j p—j—1は様々な個体がいるらしく、博士によって行われた実験により、確認できただけでも蜘蛛、龍、二足歩行の蟹や馬などが発見され、そのすべてが人を主食とすることが判明しています。

SCP—2002—j p—j—2は特殊な材質で構成された薄い箱の中に複数枚のカードが封入されたものです。反射物に向けることによりベルトが出現、そのベルトにSCP—2002—j p—j—2を差し込むことにより特殊なパワードスーツが装着されます。この状態になることでSCP—2002—j p—j内部に自発的な侵入が可能となります。なお、脱出時はSCP—2002—j p—j内

部の鏡面体に飛び込むことで侵入時の鏡面体前に排出されます。しかし、SCP—2002—jp—j内部はSCP—2002—jp—j—2を装着した状態であっても約十分程度で消滅が始まる事が確認されています。

また、パワードスーツの状態では、右手の装甲にSCP—2002—jp—j—2本体に封入されたカードを読み込ませることによって武装の展開やSCP—2002—jp—j—1の一種と思われる人型の怪物の召喚・使役を行うことが可能です。

scp—2002—jp—j—2は、■大学に潜入していたエージェント・■が発見、送付したもので、学生数人と教授が行方不明となったゼミナールの研究室にてSCP—2002—jp—jの文献とともに複数個保管されていました。

現在SCP—2002—jp—j—2はサイト—■—■内部の収容ロッカーにて保管されています。

以下、SCP—2002—jp—jの調査記録

調査記録 日付20■—■—■

調査員：D—1251（カメラ、マイク、脱走防止用小型爆弾、SCP—2002—jp—j—2装着状態。また時間制限と対象SCP i Pの大まかな内容も説明済み）

実験場：サイト—■—■内部 実験室A

《記録開始》

D—1251『つとと…へえ、鏡の世界とは聞いてたが…』

■博士『D—1251、そちらの状況を。』

D—1251『ああ、こっちは一見普通に見えるが…よく見るとモノの配置が逆になってるっぽいな。』

■博士『あなた以外に生物はいますか？』

D—1251『今のところ見当たらないな。』

■博士『では、こちらと同様にその部屋の扉に鍵はかかっていますか。』

D—1251『ちよつと待っていてくれ…うん、開かないな。』

■■■■博士『ではこちらの鍵を開けますので、そちらの鍵が開くかどうか確認してください。』

《鍵が解錠される音》

D—1251『おっ、こっちも開いたみたいだ。』

■■■■博士『そのまま歩き回ってみて下さい。気になる点があれば逐次報告を。』

D—1251『了解だ。』

↳数分間廊下を歩く音が鳴り続ける↳

D—1251『そろそろ行けるところは一通り回ったが…』

■■■■博士『そうですか。では時間も近づいていますので一旦戻ってきてください。』

D—1251『確か時間が来ると消えちまうんだったか。わかったよ。えーつと確か…鏡とかに飛び込めば良いんだったけ?』

■■■■博士『はい。それでこちらに戻れます。』

D—1251『あいよ。…うおあっ!』

■■■■博士『どうしました!』

D—1251『なんか白い怪物が…うおっと!』

■■■■博士『それが先程説明した生物です!至急こちらに戻ってください!』

D—1251『いや、ほつといったら不味いんだろこいつ!?!っおらあ!…あれ。』

■■■■博士『…怪物に何か変化がありましたか?』

D—1251『何か…殴ったら爆発した。』

■■■■博士『…そちらの世界の怪物は死亡すると爆発することですが…』

D—1251『…そっち戻るわ。』

■■■■博士『…はい。』

《記録終了》

補足：20███年1月19日、都内にSCP|2002|jp|j
内部よりトンボ型のSCP|2002|jp|j-2が大量に出現、
それ以降SCP|2002|jp|jの活動が認められず、またSCP
P|2002|jp|j-2もすべて、単純なパスワードスーツである
点以外の殆どの機能も使用不能となりました。

本部は以上を持ってSCP|2002|jp|jが完全に活動を
停止したと判断し、オブジェクトクラスはNeutralizedへ
と再定義されました。

現在SCP|2002|jp|j-2はAnomalousアイ
テムとしてサイト|8109にて保管されています。

SCP—2740—j p—j “「遊」愛”

アイテム番号：SCP—2740—j p—j

オブジェクトクラス：k e t e r S a f e N e u t r a l i z e d

特別收容プロトコル：SCP—2740—j p—jは電子世界を漂っており、確保は困難であると思われます。

SCP—2740—j p—jは現在、サイト—■■■■内部に收容されています。

SCP—2740—j p—jは現在無力化されています。

説明：SCP—2740—j p—jは発生源が不明なハッキングAIと思われる存在です。

20■■年■■月■■日に■■県のネットカフェより突如発生、数週間で世界中の約8割の電子機器をハッキング、使用不可能な状態へと追い込みました。

SCP—2740—j p—jの異常性は過剰とさえ思える知識欲と自己進化能力にあり、様々なデータやAIを取り込むことによる進化、またあらゆるプロテクトやワクチンプログラムを無力化したうえでそれらさえも取り込み、学習と進化を繰り返していきました。

その過程は混乱・挑戦・破壊のプロセスを踏んでいる模様で、ハックしたデータ等で騒ぎを起こし、駆除ワクチン等を引き込み、それを取り込み進化する手法がほとんどでした。

また、SCP—2740—j p—jはゲーム好きであるらしく、度々ハッキングされたPCなどからSCP—2740—j p—jが「love machine」というアカウントを使用し、プレイしていると思われるゲームの様子が世界各地で放送される、世界中に「please try winning me」というメッセージとともに対戦ゲームのURLが贈られるなどといった行動が見られました。

20■■年■■月■■日、日本支部の■■博士はSCP—2740—j p—jのゲーム好きという性質を利用した「プロトコル・インポッシ

ブルゲーム―2740」を発売、収容に成功しました。

SCP―2740―jp―jは現在無力化さreています。

補遺2740―1：プロトコル・インポッシブルゲーム―2740
日本支部の■■■博士はSCP―2740―jp―jのゲーム好き
であるという性質を利用し、攻略がほぼ不可能であるゲームを作成、
それを用いてスタンドアローン状態の端末に封じ込めるという案を
提案しました。

SCP―2740―jp―j専用の収容場所としてサイト―■■■
■■■を作製。内部にプロトコル維持のため最新のスーパーコン
ピューターと冷却装置を内蔵しています。

ゲームのプログラムそのものに、プレイヤーはギリギリで勝てない
ように仕込まれるシステムを搭載、SCP―2740―jp―jに向
けてメッセージを送り、入り込んだ時点で即座に回線を遮断、確保す
るというものです。

これにより、SCP―2740―jp―jは現在サイト―■■■
収容されています。

SCP―2740―jp―jハげんざイ無ryおく化さreて
います。

o n i g D
v o s a o
e t m n
r. e n
o
t
b
e
s
i
l
l
y.

SCP—4527—j—EX “神々が競う国”

アイテム番号：SCP—4527—j—EX

オブジェクトクラス：Explained

特別収容プロトコル：現在、SCP—4527—j—EXに
対しての封じ込め手段は講じられていません。

説明：現在、SCP—4527—j—EXは20■年以降より日
本国内全域に発生しており、特に15～18歳の「相撲を好んで行う」
高校生、職業「力士」の人物に強い影響を与えています。

SCP—4527—j—EXの異常性は二つあり、一つ目は「一定
以上の力量を持った力士の取組みを見る」ことを条件とし、条件を満
たした対象に「相撲は非常に魅力的である」という認識を植え付けま
す。

基本的には「相撲を見るのが好き」という程度で落ち着きますが、
元から相撲好きである場合のみ男性は「相撲をしたい」、女性は「相撲
をする男性を支えたい」という衝動が発生、相撲関係の事柄に積極的
にかかわるようになります。この異常性の副作用か、SCP—452
7—j—EXが発生して以降、相撲では八百長などが一切起きなく
なったとのことです。

もう一つは、上記の「相撲を好んで行う」高校生と職業「力士」の
人物の中でも、特に高い力量と強い精神を持つ人物の目元に「隈取」が
出現するようになります。

「隈取」が出現するのは取組みの最中で、開始直前・終了直後には確認
されていないこと、カメラなどの電子機器でも認識可能なこと、目撃
者達も「そういうものである」と認識していることから、ミーム汚染
も関係した異常性であると断定されました。

このSCPの効果範囲は完全に日本国内のみであり、日本国外で
は国内で撮影したものでも上記の異常性が喪失することが確認され
ています。

なお、このSCPの発生と同時期に角界入りし、記録上最初に「隈
取」を発現させ、現在日本一の横綱となっている「刃皇」という力士

が関係しているのではないかという疑惑も出ています。

注釈：相撲、というのはただの格闘技ではない。その大元は日本の神話上でタケミナカタとタケミカヅチの喧嘩、曲がりなりにも神同士の戦いだ。そこから転じて日本での神聖な儀式の一つになったんだ。国技に認定されているのも伊達じゃない。それだけの役割があったんだからね。

だけど、SCP—4527—j—EXが発生する前は、あの国ではほとんどの人が相撲への興味をなくし、他のサッカーや野球といったスポーツに関心が行ってしまった。もしかするとこのSCP i Pは相撲が衰退していつてる現状に憂い、危機感を抱いた日本の神が昔を取り戻すために行ったのかもしれない。

刃皇と言う人も四股踏みで雨を晴らしたなんて話があるが、あの人は神に氣に入られたんじゃないか？——■■■■博士

SCP—2013—jp—j “その森に救いはなく”

アイテム番号：SCP—2013—jp—j

オブジェクトクラス：Keter Neutralized

特別収容プロトコル：SCP—2013—jp—jは現在、■**■**県

■**■**市本社を拠点とする要注意団体「ユグドラシル・コーポレーション」によつて管理され、財団による収容ができない状態となつています。

SCP—2013—jp—jは現在無力化されたと想定されます。

説明：SCP—2013—jp—jは、現時点で■**■**県■**■**市にのみ確認される異世界間接続現象です。壁や道、空中にジツパーのようなものが発生、内部には森林が確認でき、SCP—2013—jp—jから地球上では確認されていない動植物（以降森林をSCP—2013—jp—j—1、生物をSCP—2013—jp—j—2と呼称）が外部へと進出します。

ユグドラシル・コーポレーション内部に潜入しているエージェントより送信された情報では、SCP—2013—jp—jは「クラック」、SCP—2013—jp—j—1は「ヘルヘイムの森」、SCP—2013—jp—j—2は「インベス」と団体内部で呼称されており、既にSCP—2013—jp—j—1内部の探索活動が行われていること、SCP—2013—jp—j—1内部の果実は非常に強い摂食欲求をもたらす性質を持ち、果実を摂取した生物がSCP—2013—jp—j—2へと変異すること、SCP—2013—jp—j—2を用いた生体実験が行われていること、そして調査の結果SCP—2013—jp—j—1は徐々に浸食し、やがてはこの世界を飲み込む可能性が高いこと、またそれによる人類滅亡を防ぐための手段として「プロジェクト・アーク」（後述）を計画していることが判明しました。

調査報告書：プロジェクト・アークに関するものと思われるメモ

『クラックを見つけたあの日から、私たちの運命は変わった。』

『あの森は何れ世界を飲み込むだろう。私たちが死ぬその前に私自身の願望を叶えるためにも、この計画は成功させなければならぬ。』

『私が開発したドライバーさえあればあの森の中でも暮らすことは不可能では無くなった。』

『だが、ドライバーの数にも限りがあり、人類すべての手元に渡ることには不可能である。』

『それ故に人類を選別しなければならない。生き残るべき10億人を。』

『そしてそれ以外は全て予め切り捨てる。』

『完成したドライバーを選ばれた者達に配布し、侵略を乗り越える。』

『彼を王とし、新たな進化をもたらすためにも。』

――極――

補足：20██年██月██日、正体不明である鎧武者のような風貌の人物により、██市のユグドラシル・コーポレーション支部の一部が破壊、数ヶ月後には██市から完全撤退。それと同時期にSCP―2013―j p―jの活動が見られなくなり、また元ユグドラシル・コーポレーション重役であった人物から『あの森はこの星から手を引いた』というメッセージが当支部に発信されました。

この情報と数日の調査を持って、SCP―2013―j p―jは現状無力化状態であると本部は判断し、SCP―2013―j p―jはNeutralizedと再定義されました。

なお、ユグドラシル・コーポレーションはこのSCP i Pに関係した一連の事件により世界的にテロリスト組織として認識され、瓦解状態となっています。

《警告：このファイルはレベル4／2013クリアランスを持つ人員
にのみアクセスが許可されています。アクセスしますか？》
「.....」 Enter

《コード入力：OK 網膜認証：OK 声紋認証：OK 指紋認証：OK》

《あなたは閲覧可能人物であると証明されました。》

アイテム番号：SCP-3000-jp-j
オブジェクトクラス：Tauviel

特別收容プロトコル：SCP-3000-jp-jは現在、太陽系外の惑星に存在していると考えられます。

説明：SCP-3000-jp-jはSCP-2013-jp-j内部に存在していた果実型のオブジェクトです。

SCP-3000-jp-jを体内に取り込んだ知的生命体（以後SCP-3000-jp-j-1と呼称）はSCP-2013-jp-j-jを支配する力を得るとされます。

現在のSCP-3000-jp-j-1は通常時は白髪とオッドアイ、白銀の鎧のような服装以外は常人と大差はないですが、上記の能力の他、胸部に果物が描かれた鎧武者のような姿に変化する、空中飛行、分析不可能な光弾の射出、超長距離の惑星間移動などといった能力を有しています。

SCP-3000-jp-j-1は元々一般男性であり、元々注意団体「ユグドラシル・コーポレーション」の極秘被検体として扱われ

ていました。

その後、SCP―2013―jp―j内部より何らかの手段でSCP―3000―jp―jを入手、現在は別の惑星にてSCP―2013―jp―jを広げているとのことです。

なお、この情報はユグドラシル・コーポレーションに潜入していた職員によって送られてきたものです。

SCP—1985—jp—j “アイテムボックス

”

アイテム番号：SCP—1985—jp—j

オブジェクトクラス：Safe

特別収容プロトコル：SCP—1985—jp—jは、サイト—8181の標準Safeクラス収容ロッカーに収容されます。このオブジェクトの使用・実験はBクラス以上の職員に許可をとった上で行ってください。

説明：SCP—1985—jp—jは、正体不明の材質によって構築された30×30×30cmの立方体の箱です。全面が光沢感を持った黄色で、一面にのみ大きくクエスチョンマークが刻まれており、重量は機械による測定結果では10Kg程度ですが、人が持つとその人の感覚で「少し重いが持ち上げることは十分可能」な重さに変わります。

SCP—1985—jp—jは一面にのみ一定以上の威力を持った衝撃を与えることで、反対側の面から使用者に異常性を与える“アイテム”（以降SCP—1985—jp—j—1と呼称）を一つ、ランダムで排出します。SCP—1985—jp—j—1を排出したSCP—1985—jp—jは黄色から赤銅色に変化し、SCP—1985—jp—j—1を排出しなくなります。その後約10分経過した後に元の状態に戻ります。

SCP—1985—jp—j—1は上記の通り、使用者に何らかの異常性を与える物質です。その形状は非常に多彩ですが、いずれも「SCP—1985—jp—j—1に直接接触れる」ことで対象に吸収され、一定の異常性を獲得させます。

SCP—1985—jp—j—1によって与えられた異常性には一つを除いて時間制限はなく、何らかの攻撃を受けることで消失します。この“攻撃”の定義はSCP—1985—jp—j—1使用者の認識に左右されます。また、異常性の喪失直後約1秒間のみ地形以

外のあらゆるものを透過するという現象も確認されています。

実験記録

記録形式

被験者：

SCP | 1985 | jp | j | 1 の形状（以降形状と表記）：

効果：

実験 17 / ■■ / ■■

基礎研究チームによる簡易実験

被験者：Dクラス職員

形状：傘が赤に白の水玉模様になっているキノコ

結果：外見的な大きさが約2倍になった。

被験者：Dクラス職員

形状：花卉が軸を中心とした楕円形のもの1枚のみ、外側が赤、内側が黄色の花

結果：手のひらから地面にのみバウンドする火球を放出可能になった。

被験者：Dクラス職員

形状：上記の花に似通っているが、赤の部分が青、黄色が水色になっっている花

結果：火球ではなく着弾個所を凍らせる冷凍弾。バウンドはしない。

被験者：エージェント・カナヘビ

形状：青色の亀の甲羅のようなもの

結果：甲羅がそのまま装着された。足や頭部、尾を甲羅内に格納可能になり、格納中は攻撃しても解除されなくなった。

この甲羅ちよつと重いわ：

——エージェント・カナヘビ

被験者：たまたま日本支部に用があったキング博士

形状：花卉が軸を中心とした楕円形のもの1枚のみ、外側が赤、内側が黄色の花

結果：手からリンゴの種が出るようになった。

被験者：同上

形状：青色の亀の甲羅のようなもの

結果：背中に巨大なリンゴの種が出現した。

……

—— エージェント・カナヘビ

……

—— キング博士

実験 17 / ■■ / ■■

非人類に対する SCP-1985-jp-j-1 の効果を調査するための実験

被験者：野犬

形状：傘が赤に白の水玉模様になっているキノコ

結果：変化なし

被験者：猫

形状：上記の花に似通っているが、赤の部分が青、黄色が水色になっている花

結果：変化なし

動物には効果がないでしょうか？ですがエージェント・カナヘビには効果が出ていますし……

—— 研究助手 ■■

被験者：亀

形状：青色の亀の甲羅のようなもの

結果：変化なし

君はこれで何が起こると思っていたんだ。

—— ■■博士

被験者：SCP-CN-1987-j によって少女の姿を取れるようになった白猫

形状：ペンギンをモチーフにしたと思われる全身スーツ

結果：猫の状態では変化がなかったが、人間態ではスーツを装着し

た状態になった。現時点での異常性は不明だが着心地はいいのと。

基準が分からなくなってきたな……

—— ■ ■ ■ 博士

可愛い……

—— 研究助手 ■ ■ ■

気持ちはわかるが真面目にやってくれ。

—— ■ ■ ■ 博士

被験者：モルモット

形状：黄色い星型のもの

結果：約10秒間のみの間、体重差などを無視して触れたものを一方的に弾き飛ばすようになった。

約十秒間の地獄でした。

—— 研究助手 ■ ■ ■

補足：このSCP—1985—j p—jとSCP—1985—j p

—j—1は、国内で有名な某ゲーム会社の看板作品に出てくるものと酷似していますが、現在関連性は解明されていません。

SCP—571—jp—j “二人の死神”

アイテム番号：SCP—571—jp—j

オブジェクトクラス：Euclid Keter Euclid

特別収容プロトコル：SCP—571—jp—jと定義された二人の人物は現在、日本国内そのものを収容箇所とすることで疑似的な収容に成功しています。SCP—571—jp—jが国外に出ようとする意志を持った場合は間接的な形で妨害し、こちらを認識されないようにしてください。

現在、SCP—571—jp—j—1（個体名「工藤 新一」）が行方不明となり、捕捉不可能な状態です。

SCP—571—jp—j—1はSCP—4869—jp—jによって若返りを起こし、現在個体名「江戸川 コナン」と名乗り■■■■町に在住していることが判明。以降は当初と同様の手段で引き続き監視・妨害を続けてください。

説明：SCP—571—jp—jは複数の異常性を持った人型オブジェクトです。現時点では日本国内の個体名「工藤 新一」「江戸川 コナン」（以降SCP—571—jp—j—1と呼称）・「金田一」（以降SCP—571—jp—j—2と呼称）の二名が確認されています。

彼らは自身の周囲に何らかの事件を引き寄せる、もしくは事件が起こる場所に引き寄せられる異常性を有しており、また彼らに近い人物、出会った人物もそれに巻き込まれやすくなる模様です。

発生する事件の内容はほとんどが殺人、または殺人未遂で占められており、その結果としてSCP—571—jp—j—1の暮らす町では犯罪発生率が異常に高くなっている、SCP—571—jp—j—2の関わった事件のいくつかは彼の友人が事件の犯人や被害者になる、という形で周囲が影響を受けています。

またもう一つの異常性として、自分自身に降りかかる脅威を無意識、または幸運によって回避するという性質も備えており、日本支部で彼らを確保しようとした際はあと一歩と言うところで何らかの邪

魔が入り、確保に至ることはできませんでした。ただしこの異常性は振れ幅があるらしく、最初から回避できることもあれば死ぬ直前で何らかの奇跡や幸運によって生還する場合も確認されています。

SCP—571—j p—j—1の両親やSCP—571—j p—j—2の祖父にも似たような異常性が確認されていた模様で、前者は異常性を喪失、後者は既に死去しているために確保する必要性は皆無ですが、この情報からSCP—571—j p—jが親族に伝染する異常性である可能性も生じています。

補遺：現在、■■府在住の個体名「服部 平次」にも近似値の異常性が発現しつつある点から、SCP—571—j p—jは自然発生するSCP i Pである可能性も生じました。

SCP—4869—jp—j “Dead or
young”

アイテム番号：SCP—4869—jp—j

オブジェクトクラス：Safe Taumiel

特別収容プロトコル：SCP—4869—jp—jは現在、サイト—8181の標準Safeクラス収容ロッカーに収容されます。モルモットやマウス以外を対象としたこのオブジェクトを用いた実験は認められていません。

説明：SCP—4869—jp—jはカプセル型の薬品で、通常時は服用者のアポトーシス誘導と細胞増殖の活性化を引き起こすことで死に至らしめる毒薬です。

準要注意団体「黒の組織」によつて偶発的に開発されたオブジェクトであり、服用者の遺体から毒物反応が一切出ないという特性から、暗殺用の毒薬として用いられていました。

このオブジェクトはごくまれに「服用者にDNAの逆行による若返りを起こす」という異常性を発現し、「黒の組織」は異常性が判明した後も十数回に置いて実験を兼ねた暗殺として使用されたことが調査の結果判明しました。なお、この異常性によつて若返った人物（以降SCP—4869—jp—j—1と呼称）は現時点では2名のみ確認され、そのうち一人が行方不明となつていたSCP—571—jp—j—1、個体名「工藤新一」であることが判明しています。なお、人間以外にも異常性が発生することは実験の結果、確認されています。このオブジェクトを用いたいくつかの実験の結果、SCP—4869—jp—j—1を一時的に元に戻す手段として「SCP—4869—jp—j—1が風邪を引いた状態で白乾児、またはそれに準じた成分を摂取する」ことが有効であることが判明、現在は異常性を安定して発現させる方法とともに研究中です。

「黒の組織」内部に残されていたデータ

「A P T X 4 8 6 9 服用者一覧」

「樽井英蔵」 死亡

「新岡芳江」 死亡

「松坂宗男」 死亡

「武石良雄」 死亡

「工藤新一」 不明（SCP―571―j p―j―1の個体名。現在は個体名「江戸川コナン」として生存が確認されている。）

「豊田稔」 死亡

「羽田浩司」 死亡

「野本昌治」 死亡

「五島淳実」 死亡

「上園孝也」 死亡

「宮野志保」 不明（現在は個体名「灰原 哀」としてSCP―571―j p―j―1と行動を共にしていることが確認されている。）

補遺：ブライト博士が二度としてはいけないことこのリストに「SCP―682にこの薬品をおやつと称して与えようとしてはいけません。どう転んでも絶望にしかならないだろうから！やめろ！マジで！」が追加されました。

SCP-007-jp-j // 疑心暗鬼を生ずるは

“

アイテム番号：SCP-007-jp-j

オブジェクトクラス：Keter

特別收容プロトコル：SCP-007-jp-jは、現在発生源である■■■■市■■■村一带を極秘に隔離・管理しています。担当職員は定期的に検診を受け、発症が見受けられた場合は支部からの通式メンタルケアを週に一度受診し、高野式呼吸法SCP-007-jp-jの発見者である高野一二三によって考案された特殊な呼吸法。と9時間以上の睡眠を1週間続け、■■■■村近辺から離れないようにしてください。

また、村内外への直接的な何らかのやり取りが行われる場合はDクラス職員を代理に立てるようにしてください。

村内の住人にも月に一度の定期検診を受診させるようにしてください。

説明：SCP-007-jp-jは■■■■市■■■村一带に存在する寄生虫で、第二次世界大戦中にある軍医が発見・調査し、その後感染者が全員同じ村の出身者であることなどがエージェントにより本部へと通達され、このオブジェクトの存在が判明しました。

SCP-007-jp-jの主な感染経路は空気感染で、過去の文献と発病したDクラス職員を用いた実験と調査の結果、症状は6段階に分かれ、いずれも精神に異常をきたすものであることが分かっています。

発病する要因は、

(1) 精神的な不安、強いストレスを抱えている者

(2) ■■■村から離れた者

の2種類に大別されます。(1)は不安やストレスが大きいほど、(2)は■■■村から離れた距離・時間が大きいほどに発症確率が上がり、(1)を原因とする場合は比較的容易に発症しますが、(2)によ

る発症は稀であるとのこと。 (2) の事例は現時点では文献のみでしか確認されていませんが、十分に警戒に値すると想定されます。症状に関しては症状記録：007-jp-j-Aを参照してください。

このオブジェクトは元要注意団体「入江機関」によって確保・研究されていましたが、昭和■■■年に突如日本支部に「入江機関」の閉鎖、SCP-007-jp-jの收容・管理の要請などといった旨の連絡が入り、財団の管理下に置かれることとなりました。

元要注意団体「入江機関」は■■■村を拠点としてSCP-007-jp-jの軍事的利用を目的として設置され、その過程でSCP-007-jp-jの効果を増幅させる「H173」やその発展形、第5・6段階目発症者にのみ効果的な鎮静薬である「C120」の開発に成功しています。

「入江機関」は前述の通り閉鎖し、現在は研究施設であった「入江診療所」は引き続き財団の研究施設として使用、元所長以下研究員全員がSCP-007-jp-jの担当職員として業務を行っています。

症状記録：007-jp-j-A

段階1 感染しているが発病はしていない段階。 段階2

誰かの気配を感じ、その人物とおぼしき声が聞こえることがあるが、日常生活への影響はない。 段階3 非常に軽微な幻覚、幻

聴もあるが、大きな症状としては、物事を曲解するようになることが挙げられる。その結果、他人に疑心を持ち始める。 段階4 幻

覚・幻聴を起す。異常な行動が目立ち、極度の疑心暗鬼と人間不信から抜け出せなくなる。 段階5 自分が何らかの危機に晒さ

れているという妄想に陥るが、この「危機」に関してはひどく漠然としたものであったり、特定の人物が自分の命を狙っているというものであったりと個人差がある。リンパ腺のあたりに強い痒みが出る。

段階6 幻覚・幻聴の症状が最大限に大きくなり、いない人間をいるものと誤認することがある。周りの人間全てが自分を殺そうとしているという妄想に陥り、防御本能より周りに無差別な攻撃行動

を加えるようになる。ひどい錯乱状態にあり、記憶も混乱する。最後には自分の手でのどを掻き筆って死ぬことが多い。

追記：■■■村では毎年夏まつりが行われ、その日に必ず死者と行方不明者が1名ずつ出るとされていましたが、このオブジェクトの影響によるものであると断定されました。

この結果より、本部から村人に対しての定期的な検診を特別収容プロトコルに追加するよう指示が出ました。

—■■■00／5／10

SCP—729—j p—j “なにげさん”

アイテム番号：SCP—729—j p—j

オブジェクトクラス：Euclid

特別收容プロトコル：SCP—729—j p—jはサイト—814
1の家具及び洗面・風呂場を備えた人型生物收容室に收容されます。
SCP—729—J P—Jには一般職員と同様、1日3回の食事と1
回の間食、サイト内限定で半日ほどの自由時間を与えてください。ま
た昆虫類を極度に苦手としているため收容室に近づけないようにし
てください。

SCP—729—j p—jが発見された■■高校とSCP—72
9—j p—jの周辺人物にはカバーストーリー「ヘッドハンティン
グ」財団が保有するペーパーカンパニーの人材派遣会社にスカウトさ
れ、そのまま海外に移住したという内容。を適用し、最悪の場合は記
憶処理を行ってください。

説明：SCP—729—j p—jは一般的な女子高生の外見をして
おり、“約数十メートル以内で困っている人の位置とその内容が分か
る”、“衣服や所持しているカバンなどの内容量がある程度拡張され
る”、“■■高等学校（SCP—729—j p—jが発見された●●
府内の高等学校）の生徒・教員には在籍している人物であると認識さ
せる”などといった複数の異常性を有しています。

ただし万能ではない模様で、“夏服になると持ち物が入りきらず服
や鞆が膨れている”、“恋愛関係ではどうにもならなかったらしく泣
いて逃げた”といった光景も確認されていることが■■高等学校で
の調査で判明しています。

■■高等学校内では「なにげさん」と呼称されており、興味本意で
調査する人物はいましたが、存在そのものや本名不明である点に違和
感を感じた人物は皆無であったとのことです。

インタビュー記録729—j p—j

対象：田淵 ■■（■■高等学校校長。記録中は校長と表記。）

インタビュアー：□□博士

付記：対象にはカバーストーリー「ヘッドハンティング」と同様の内容を説明している。

場所は■■高等学校応接室にて。

<録音開始>

□□博士：こんにちは、本日はよろしく申し上げます。

校長：ああ、どうも。よろしく申し上げます。

□□博士：突然申し訳ございません。

校長：いやいや、あの子の話を聞きたいとのこと。

□□博士：はい。あまりの優秀さに思わずスカウトしてしまい、事前調査を欠いてしまいました…

校長：ははは、プロの方でもやはりそのようなことがあるのですね。で、なにげさんのことでしたか。

□□博士：はい。

校長：ふむ、あの子は校内でも人気者でして。私も色々と世話になつてしまいました…

□□博士：ほう、貴方も…

校長：教師失格ではあるのですがね…あの子は人の気持ちをよく理解できる子です。是非ともあの子の才能を生かしてあげてください。

□□博士：はい。こちらとしてもその所存です。…それで本題に入りたいのですが…

校長：む、なんででしょう。

□□博士：彼女の本名です。

校長：……

□□博士：おかしいと思うのは重々承知です。ですが我々は彼女の本名がなぜか聞き取れません。なので彼女が在籍していたここですら、と。

校長：……（なにかを呟くような声）

□□博士：……田淵校長？どうしまし…

校長：……あれわしはあのこのことをしつていやだがなまえをきい

たおぼえ（聞き取れない言語）

□□博士：田淵校長!?!どうし…

ガタガタツ

<録音終了>

補遺：現在はSCP-729-jp-jの本名を本人もしくは関係者から聞き出そうとする行動を禁止します。

SCP—2172—j p—j “失くして気づく、かけがえ無き”

アイテム番号：SCP—2172—j p—j

オブジェクトクラス：K e t e r

特別收容プロトコル：SCP—2172—j p—jは所在不明であり、收容が困難な状態です。SCP—2172—j p—jからの帰還者を発見した場合、対象と保護者に事情聴取を行った後クラスAの記憶処理を実行、カバーストーリー「家庭訪問」を流布してください。

説明：SCP—2172—j p—jは日本国内のトンネルや洞窟などからつながるとされる地域です。

教師として全国で情報を集めているエージェント数人からの報告がきっかけとなり、当初は「共通の幻覚もしくは夢を見せるオブジェクト」であるという予測もされていましたが、一人の少女がオブジェクト内部から「現存する成分が一切確認されない団子のようなもの」（以後SCP—2172—j p—j—1と呼称）を持ち帰り、エージェントの一人に証拠として譲渡したことから現存する空間であることが判明しました。

SCP—2172—j p—jはこれまでの情報から、何らかの出来事により『現実からの逃避を望んだ』一定以下の年齢の人物たちが家族とともにトンネルや洞窟等を潜り抜けたタイミングでオブジェクト内部に招き精神的な成長を促す、もしくは何らかの形で利用している存在であると想定されています。

なお、現在SCP—2172—j p—j内部に侵入した者から異常性の発現は確認されておりません。

以下はSCP—2172—j p—j—1を保有していた少女を始め、幾人かのSCP—2172—j p—jからの帰還者より提供された情報を元としたSCP—2172—j p—j内部の詳細です。

オブジェクト内部は大きく分けて一昔前の駅やテーマパークのような建築物の“門”、木造と石造りの入り交じったような住宅街と木造

の飲食店が立ち並ぶ地域である“町”、そして“町”の奥にそびえたつ巨大な和風建築物の“油屋”といった三か所に分類されます。

“町”の手前には平原と川が流れていた跡が確認され、夜には客船が停泊できるほどの河になることが証言されています。また子供たちの中には“油屋”付近にある電車を利用し、遠くの森に行かされたという者も存在し、相当に広大な空間であると予想されます。

“油屋”内部は旅館であるらしく、帰還者は“油屋”へと案内する人物（以後SCP-2172-jp-j-2と呼称）からSCP-2172-jp-j内部は「神を招き癒す人外の町」であることが伝えられるとのこと。この情報の真偽ははまだ不明です。

“油屋”は「湯婆婆」と呼称される存在（以後SCP-2172-jp-j-3と呼称）に取り仕切られており、SCP-2172-jp-j-3からは物体に触れずに動かし、対象から名とその記憶を奪うといった様々な異常性が確認されています。

オブジェクト内部では対象者に対してある一定の事例（後述）が発生し、最終的に現実世界へと帰還させられます。なお発生事例のいずれかで失敗してしまった場合対象者とその保護者がどうなるかは不明です。

発生事例：2172-jp-j

事例1 保護者とともにトンネル・洞窟を潜ると“門”の内部に入り込んでいる。事例2 “町”に侵入後、保護者が元の性格を問わず犯罪行為を行い、動物へと変質する。事例3 SC

P-2172-jp-j-2に発見され、“油屋”に侵入しSCP-2172-jp-j-3に正式に雇われるよう言われる。事例

4 SCP-2172-jp-j-3に正式に雇われる。この時点で名を奪われる。事例5 数日間従業員として働き、その後

何らかの大きな事件の解決に駆り出される。事例6 事件解決の褒美として「他の動物と保護者を見分けられれば保護者と共に帰

還できる」権利を得られる。事例7 帰還できる方法として「川の跡を越えてから一切振り返らず“門”をくぐり切る」ことを提

示される。保護者はこの直後に人の姿へ戻され、事例2時点の記憶を別の記憶で補填された状態で”門”の手前に配置される。

補遺：20■■■年5月に新たにSCP-2172-jp-jの対象者が発見されましたが、該当者の両親は行方不明となっていることが判明しました。

プロトコル実行時の聴取にて該当者は「両親を助けられなかった」「友達に助けられた」といった旨の証言をしており、この事から該当者は事例6にて選択を誤り、該当者の両親は何らかの形でオブジェクト内部に取り込まれたと想定されます。